

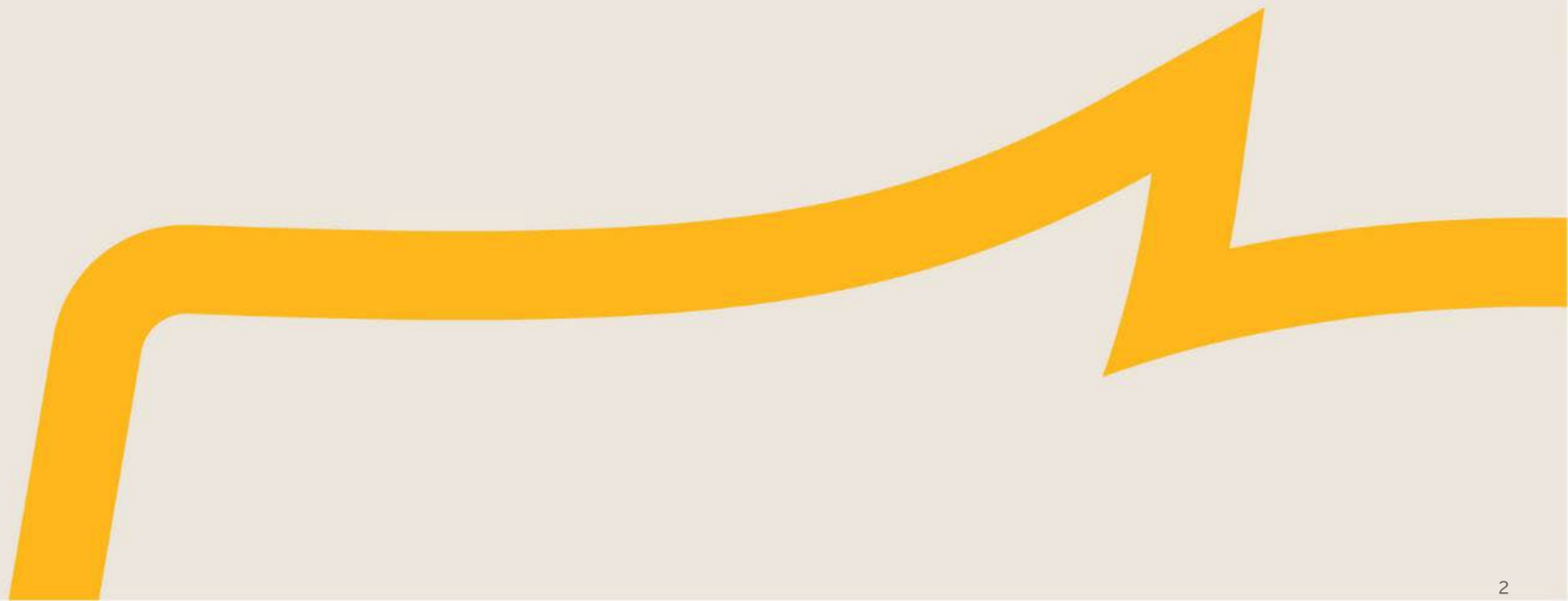
# 2024年3月期 第2四半期 決算短信補足資料

2023/11/6

株式会社ニッスイ



# 2024年3月期 第2四半期決算概況

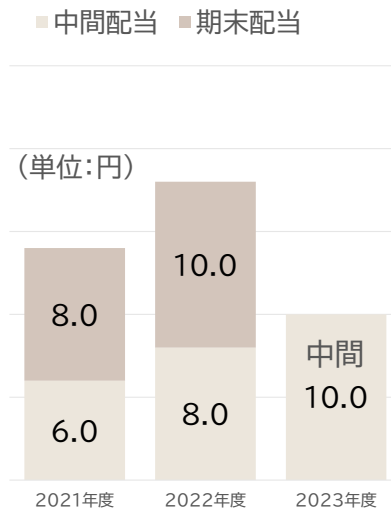


## 2024年3月期第2四半期 サマリー

- ・為替の影響に加え食品の値上げ効果もあり増収。食品が貢献し、前年を大きく上回り営業利益は22%増益。計画に対しても順調に推移。
- ・四半期純利益は前年に日水製薬(※)株式売却益があったこともあり前年並み。
- ・中間配当は2円増配の10円。

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年同期比	
			増減	増減率(%)
売上高	3,772 億円	4,071 億円	299 億円	7.9
営業利益	133 億円	162 億円	29 億円	22.1
経常利益	147 億円	170 億円	23 億円	15.6
四半期 純利益	117 億円	116 億円	▲0 億円	▲0.5

2024年3月期 計画 (5月発表)	進捗率
	(%)
8,000 億円	50.9
270 億円	60.3
290 億円	58.7
215 億円	54.4



(※)現:島津ダイアグノスティクス株式会社

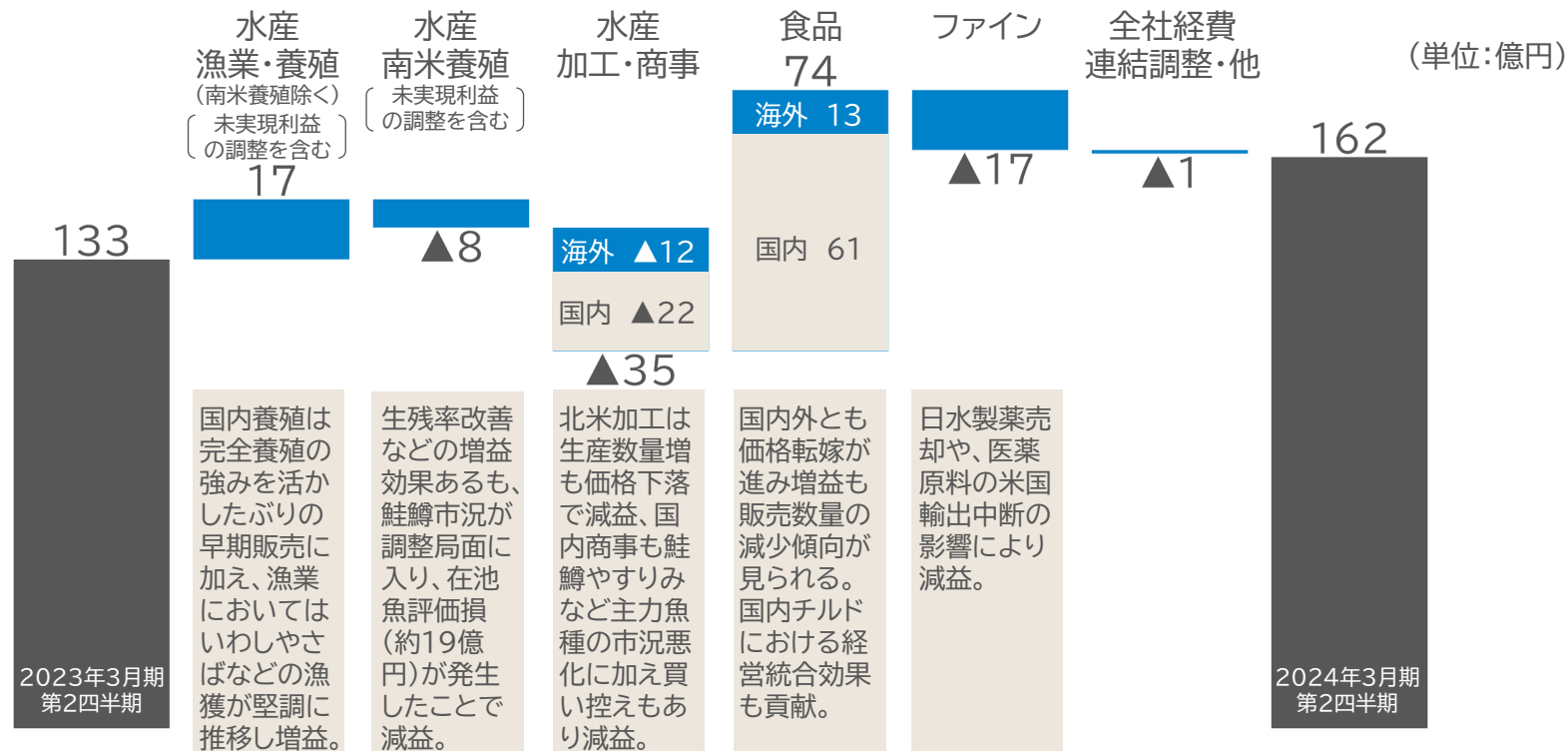
## 2024年3月期第2四半期 セグメント別概況

食品が業務用や健康領域商品の拡大に加え、為替影響や値上げで大幅増収。  
 ファインケミカルは日水製薬売却の影響により減収。

(単位:億円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	率(%)
<b>売上高</b>	<b>3,772</b>	<b>4,071</b>	<b>299</b>	<b>7.9</b>
水産事業	1,574	1,632	57	3.7
食品事業	1,873	2,191	317	16.9
ファインケミカル事業	171	79	▲91	▲53.7
物流事業	80	77	▲2	▲2.9
その他	72	90	18	25.2
<b>営業利益</b>	<b>133</b>	<b>162</b>	<b>29</b>	<b>22.1</b>
水産事業	82	55	▲27	▲33.0
食品事業	69	141	72	103.8
ファインケミカル事業	18	▲0	▲18	—
物流事業	8	8	0	2.0
その他	4	3	▲0	▲9.0
全社経費	▲49	▲46	3	▲6.1
<b>経常利益</b>	<b>147</b>	<b>170</b>	<b>23</b>	<b>15.6</b>
親会社株主に帰属する四半期純利益	<b>117</b>	<b>116</b>	<b>▲0</b>	<b>▲0.5</b>

## 2024年3月期第2四半期 主な営業利益増減要因(前年同期比)

食品は国内外とも価格転嫁が実現し増益。水産は国内養殖でぶりの早期販売や銀鮭養殖拡大が寄与するも、南米養殖・加工商事は市況悪化に加え、買い控えなどもあり苦戦。



## 2024年3月期第2四半期 連結貸借対照表(前期末比)

運転資本増加に加え、CVS向けベンダー会社の新規連結もあり総資産が増加。

(単位:億円)

( )内の数字は前期末比増減					
<b>流動資産</b>	<b>3,359</b>	<b>(+316)</b>	<b>流動負債</b>	<b>2,277</b>	<b>(+289)</b>
現金及び預金	102	(▲0)	支払手形及び買掛金	597	(+96)
受取手形及び売掛金	1,132	(+175)	短期借入金	1,105	(+99)
棚卸資産(在庫)	1,954	(+195)	未払費用	307	(+49)
<b>固定資産</b>	<b>2,676</b>	<b>(+229)</b>	<b>固定負債</b>	<b>1,291</b>	<b>(▲4)</b>
有形固定資産	1,661	(+171)	長期借入金	1,030	(▲18)
無形固定資産	170	(+29)	<b>純資産</b>	<b>2,466</b>	<b>(+260)</b>
投資その他の資産	844	(+28)	自己資本	2,388	(+220)
<b>総資産</b>	<b>6,035</b>	<b>(+545)</b>	自己資本比率	'23/3 39.5% ⇒ '23/9 39.6%	

## 2024年3月期第2四半期 連結キャッシュフロー(前年同期比)

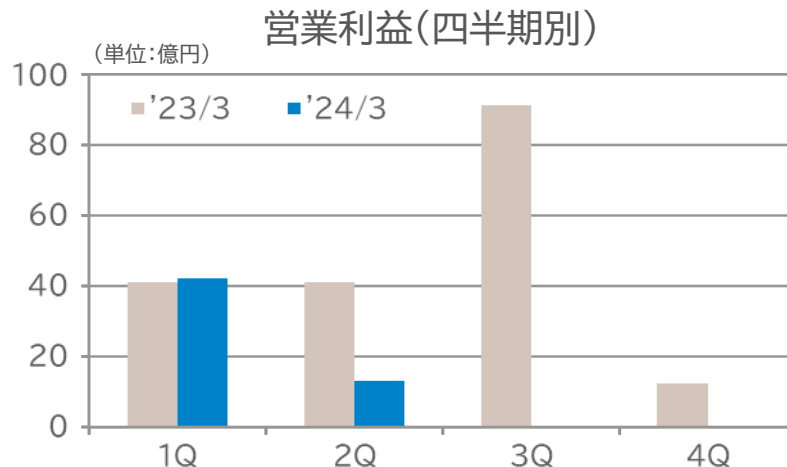
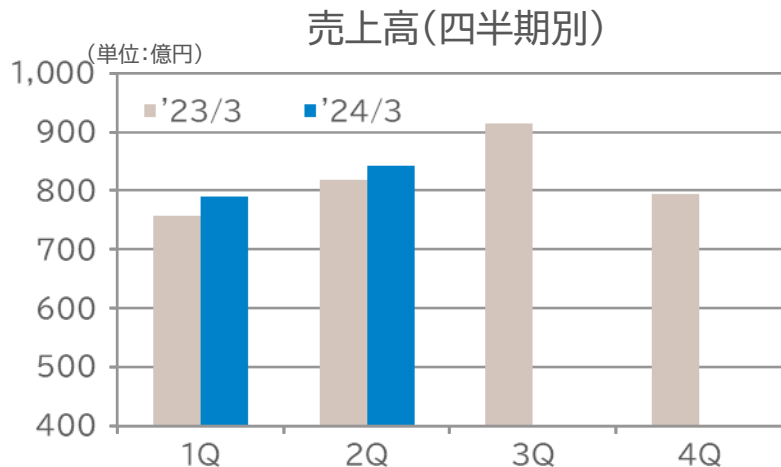
運転資本の増加ペースも落ち着き始め営業キャッシュフローが改善。

(単位: 億円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減
・税金等調整前当四半期純利益	170	174	4
・減価償却費(のれん償却含む)	96	106	10
・運転資本	▲ 314	▲ 123	190
・法人税等の支払額	▲ 80	▲ 15	64
・その他	0	29	29
<b>営業活動によるCF</b>	<b>▲ 128</b>	<b>171</b>	<b>300</b>
・設備投資額(固定資産取得額)	▲ 106	▲ 147	▲ 41
・その他	4	▲ 42	▲ 47
<b>投資活動によるCF</b>	<b>▲ 101</b>	<b>▲ 190</b>	<b>▲ 88</b>
・短期借入金の増減額	292	92	▲ 199
・長期借入金の増減額	▲ 42	▲ 67	▲ 24
・その他	▲ 31	▲ 20	10
<b>財務活動によるCF</b>	<b>218</b>	<b>4</b>	<b>▲ 214</b>
<b>現金及び現金同等物の期末残高</b>	<b>154</b>	<b>141</b>	

## 2024年3月期第2四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

市況が調整局面に入ったことで評価減が発生したうえ、商事事業は高値疲れで今後の市況を見据えた買い控えなどが見られ苦戦。

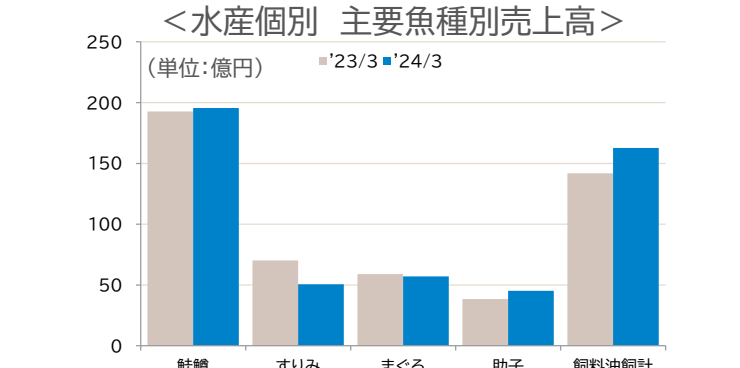
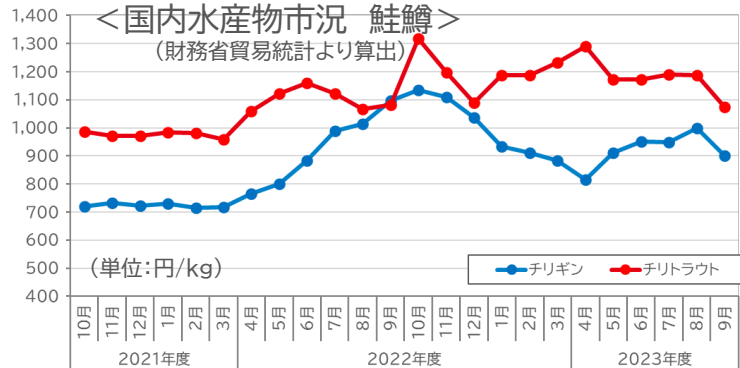
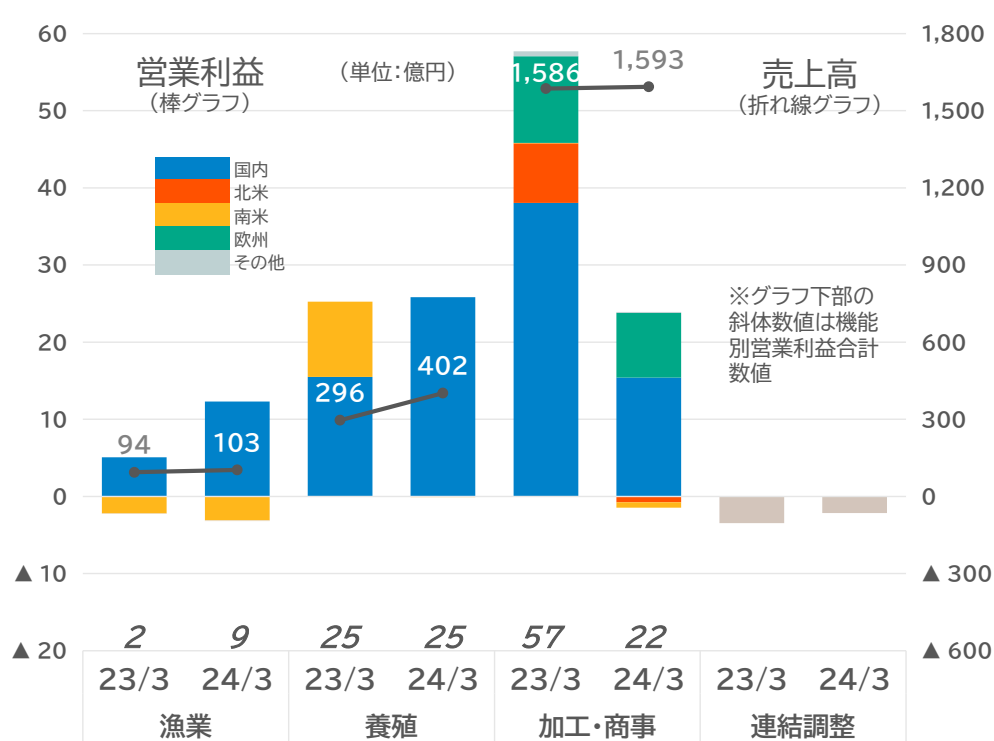
(単位:億円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	1,574	1,632	57	3.7
営業利益	82	55	▲27	▲33.0





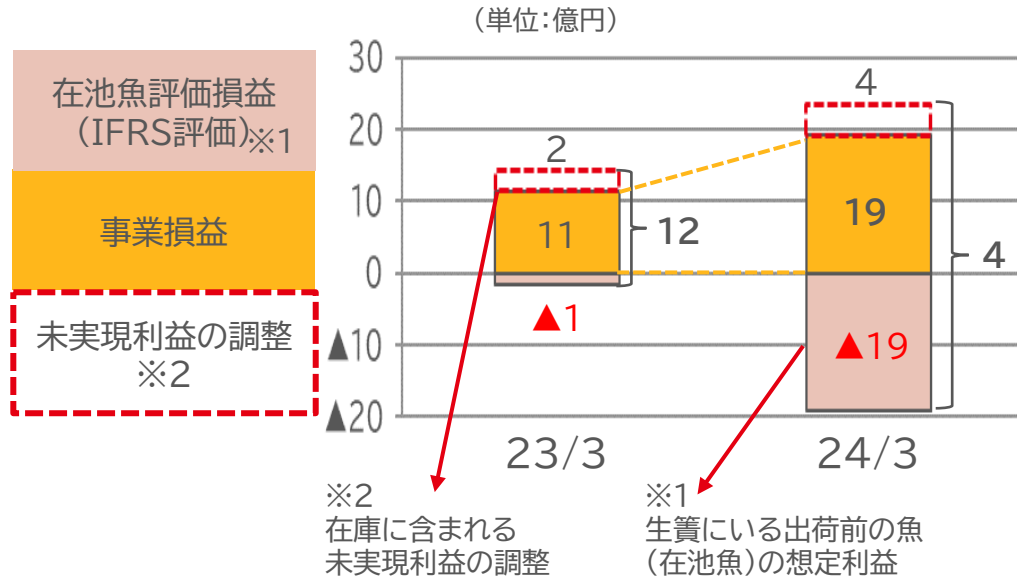
# 2024年3月期第2四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

- 国内養殖は生育環境やオペレーション改良による養殖成績の改善が進み伸長。
- 南米養殖や北米加工、商事事業は市況下落の影響を大きく受け苦戦。

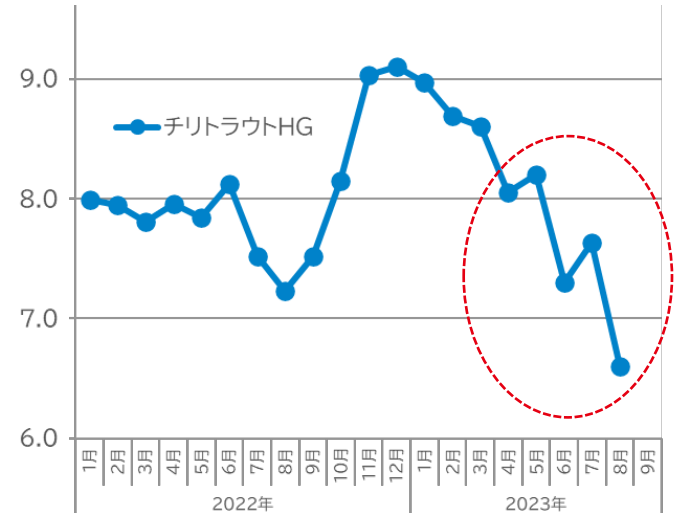


## 2024年3月期第2四半期 南米鮭鱒養殖について

生育環境改良による生残率の改善や販売数量の増加、販売価格上昇等で事業自体は順調も、第2四半期末にかけ鮭鱒市況が調整局面に入ったことが影響し、在池魚評価損が大きくなり減益。



<トラウトHG相場推移>  
(単位:USD/kg)

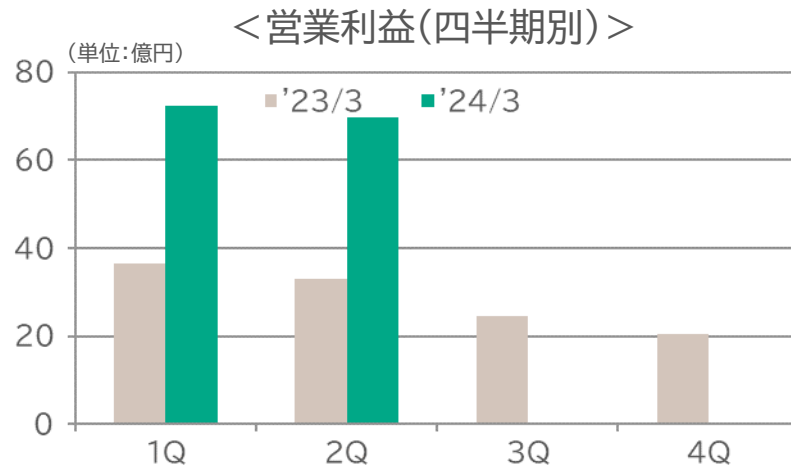
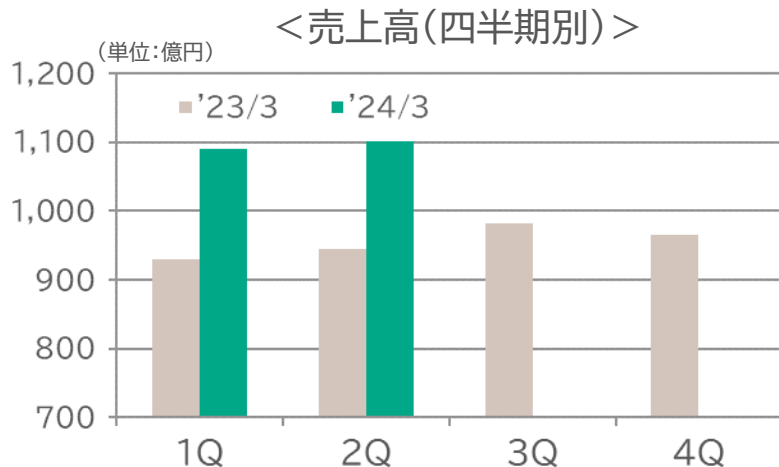


(出典:InfoTrade) (HG:頭と内臓を除去した状態の魚)

## 2024年3月期第2四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

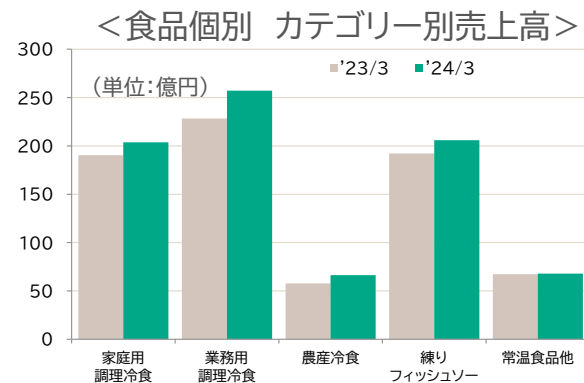
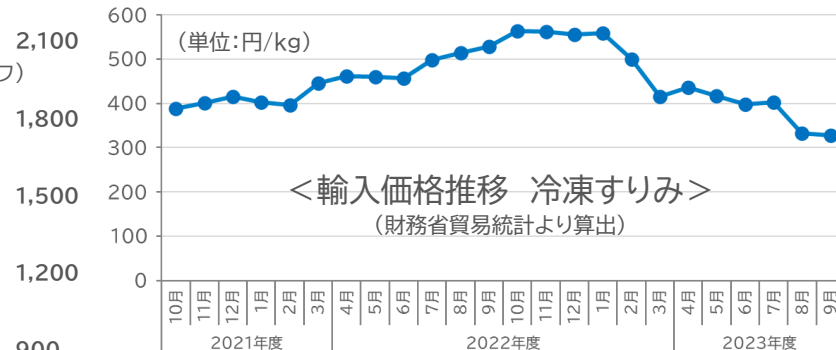
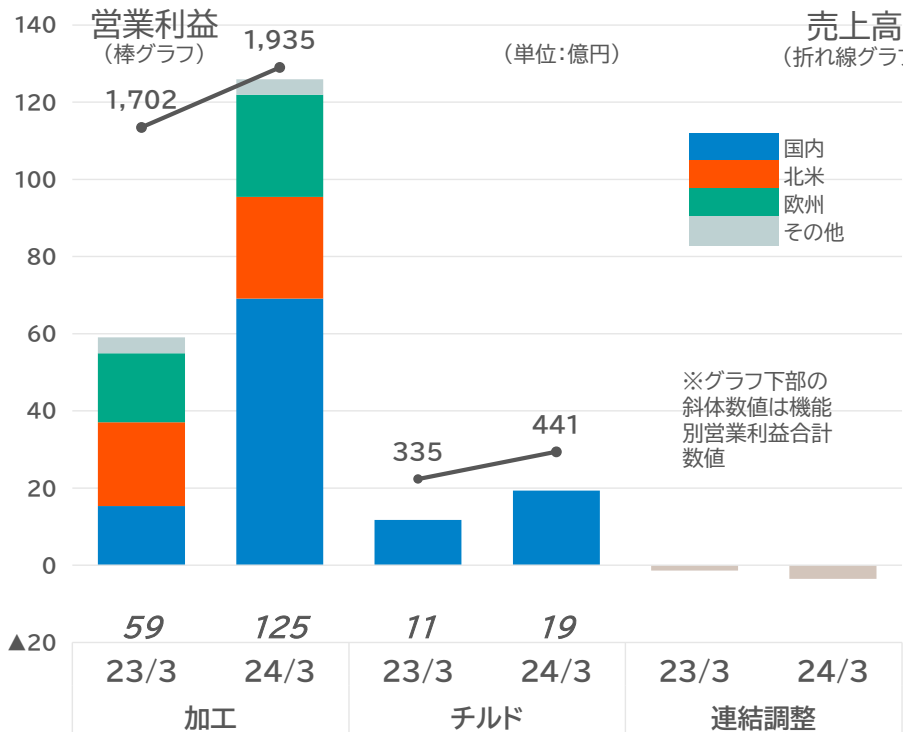
国内外とも大幅増収増益。

(単位:億円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	1,873	2,191	317	16.9
営業利益	69	141	72	103.8



# 2024年3月期第2四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

国内外ともに人流回復により外食などの業務用が好調に推移したことに加え、健康領域商品の拡大や値上げの効果で大きく伸長。チルドもCVS向けおにぎりなどが順調で増収増益。



## 2024年3月期第2四半期 ファインケミカル事業 売上高・営業利益(前年同期比)

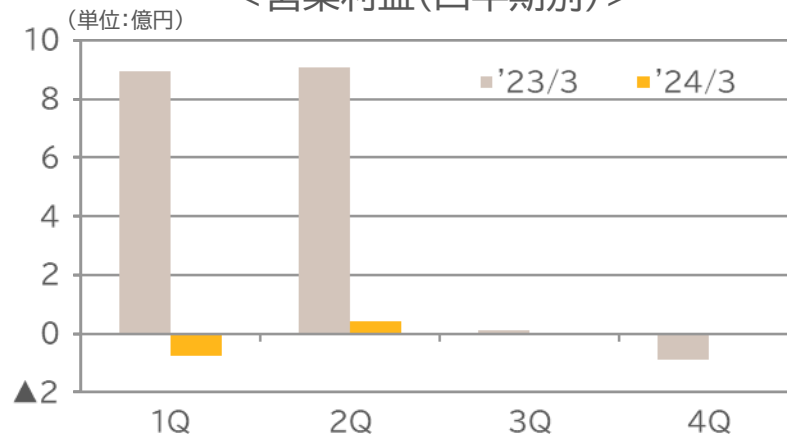
■ 日水製薬売却(2022年9月)による影響に加え、医薬原料の米国向け輸出が昨年から中断したこともあり減収減益。

(単位:億円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	171	79	▲91	▲53.7
営業利益	18	▲0	▲18	—

<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>

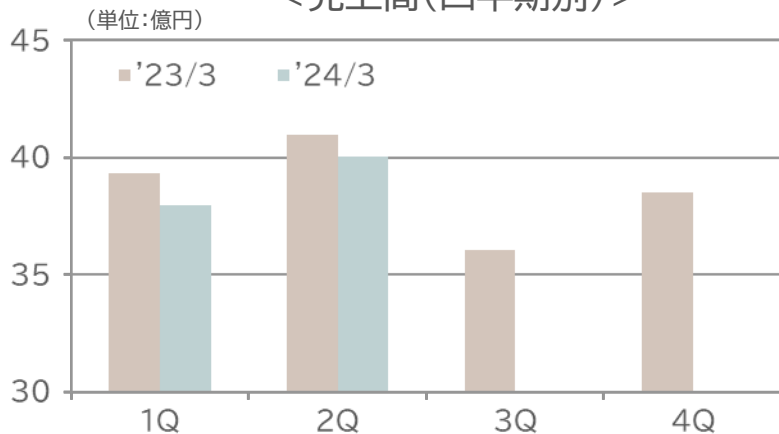


## 2024年3月期第2四半期 物流事業 売上高・営業利益(前年同期比)

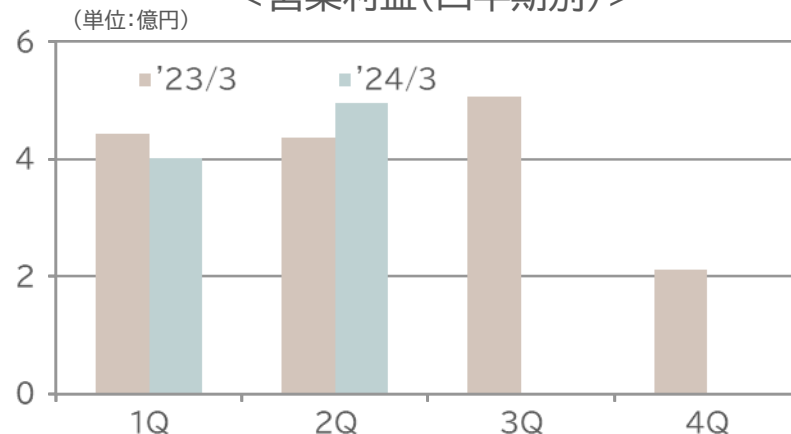
保管料の値上げを進めたことで収益性が改善し利益は前年並み。

(単位:億円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	対前年同期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	80	77	▲2	▲2.9
営業利益	8	8	0	2.0

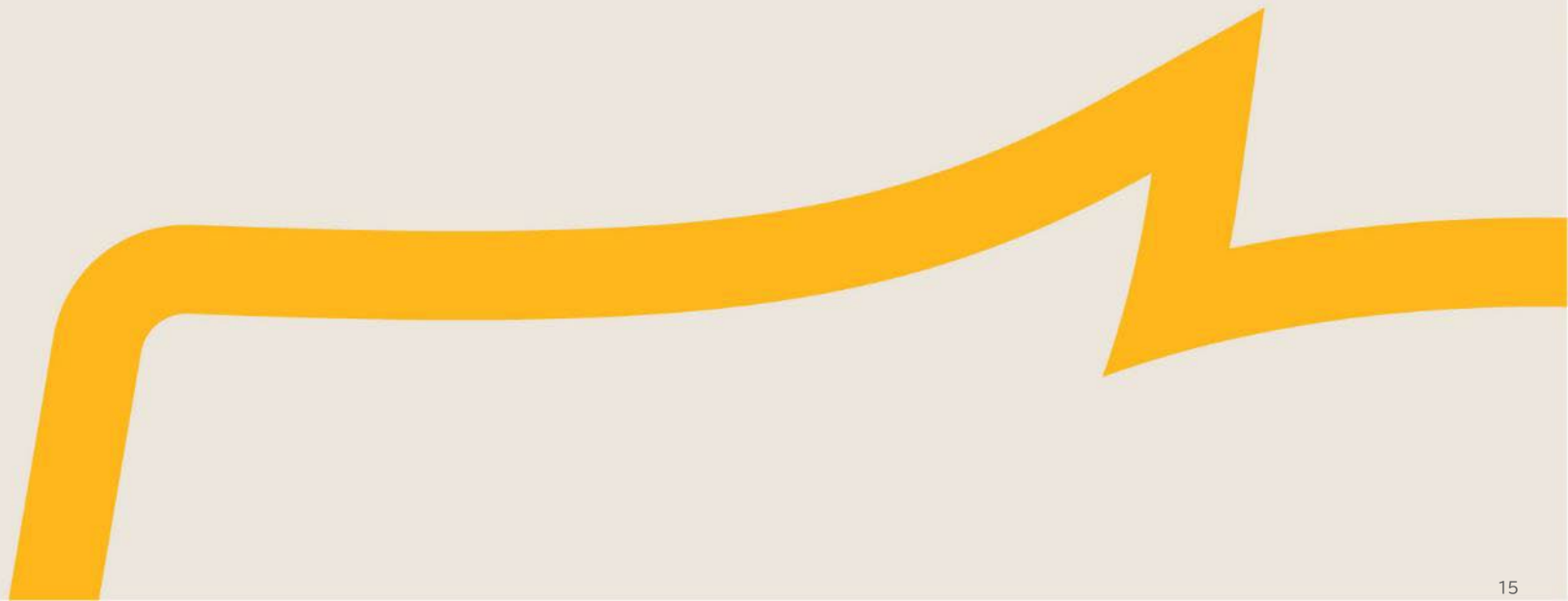
<売上高(四半期別)>



<営業利益(四半期別)>



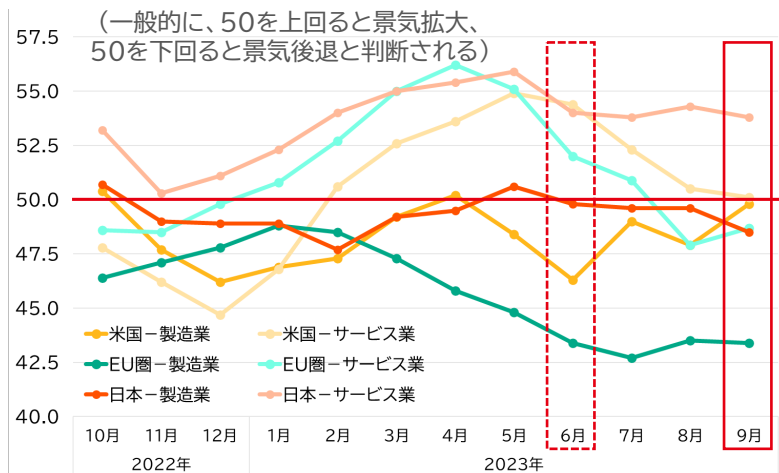
## 今後の見通し・取組み



引き続き取り巻く環境は不透明。

- ▶ 景気減速や人件費等のコストの高止まりが懸念材料。
- ▶ 水産市況はいくつかの魚種に変調が見られる。

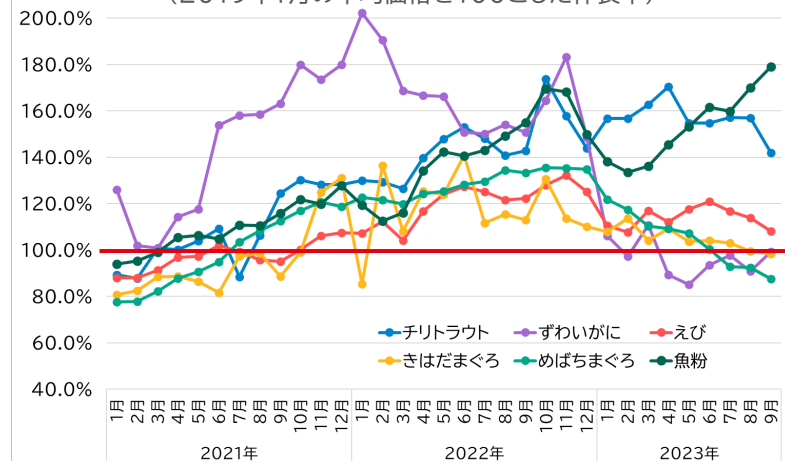
## <日本・欧米購買担当者景気指数(PMI)>



(出典:S&P Global)

## <魚種別価格伸長率推移>

(2019年1月の平均価格を100とした伸長率)



(出典:財務省貿易統計)



## 取り巻く環境

- ▶ 為替相場は、130円に戻す場面もあったが足元は150円近辺→コストアップを懸念。

- ▶ インバウンド(訪日外客数)がコロナ前水準に近づきつつあり、「食」需要の拡大に期待。

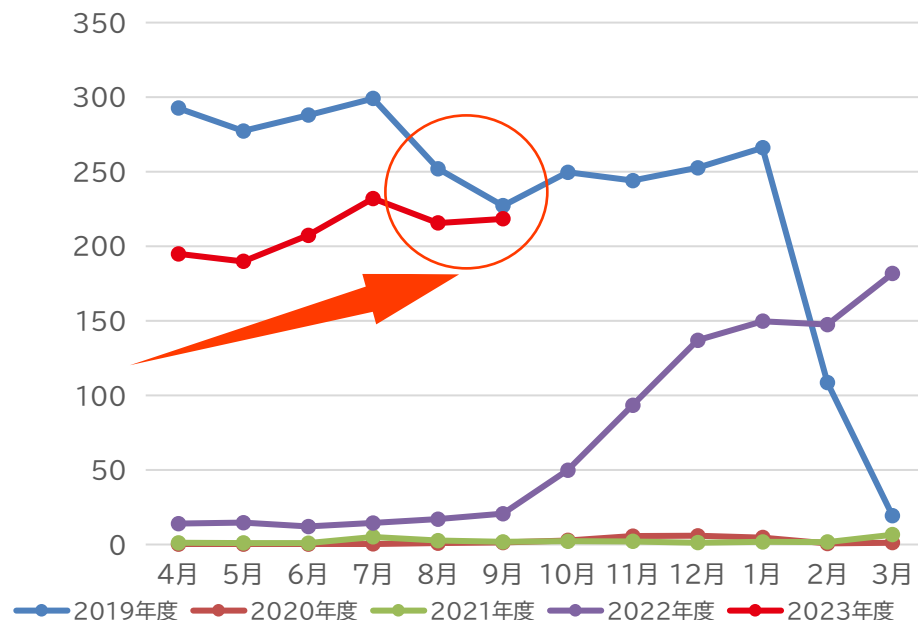
### 為替相場



(出典:財務省貿易統計)

単位:人数(万人)

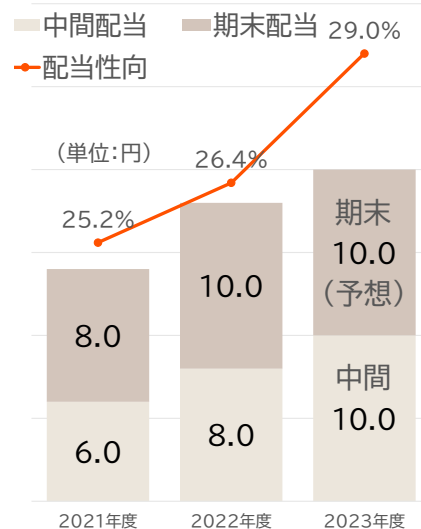
### 訪日外客数(総数)



(出典:日本政府観光局(JNTO))

売上高は円安による上振れを織り込み修正。各段階損益は変更していない。

	2024年3月期 期初計画 (5月発表)	2024年3月期 修正計画	対期初計画比		2023年3月期 前期実績
			増減	増減率(%)	
売上高	8,000 億円	8,200 億円	200 億円	2.5	7,681 億円
営業利益	270 億円	270 億円	-	-	244 億円
経常利益	290 億円	290 億円	-	-	277 億円
当期 純利益	215 億円	215 億円	-	-	212 億円



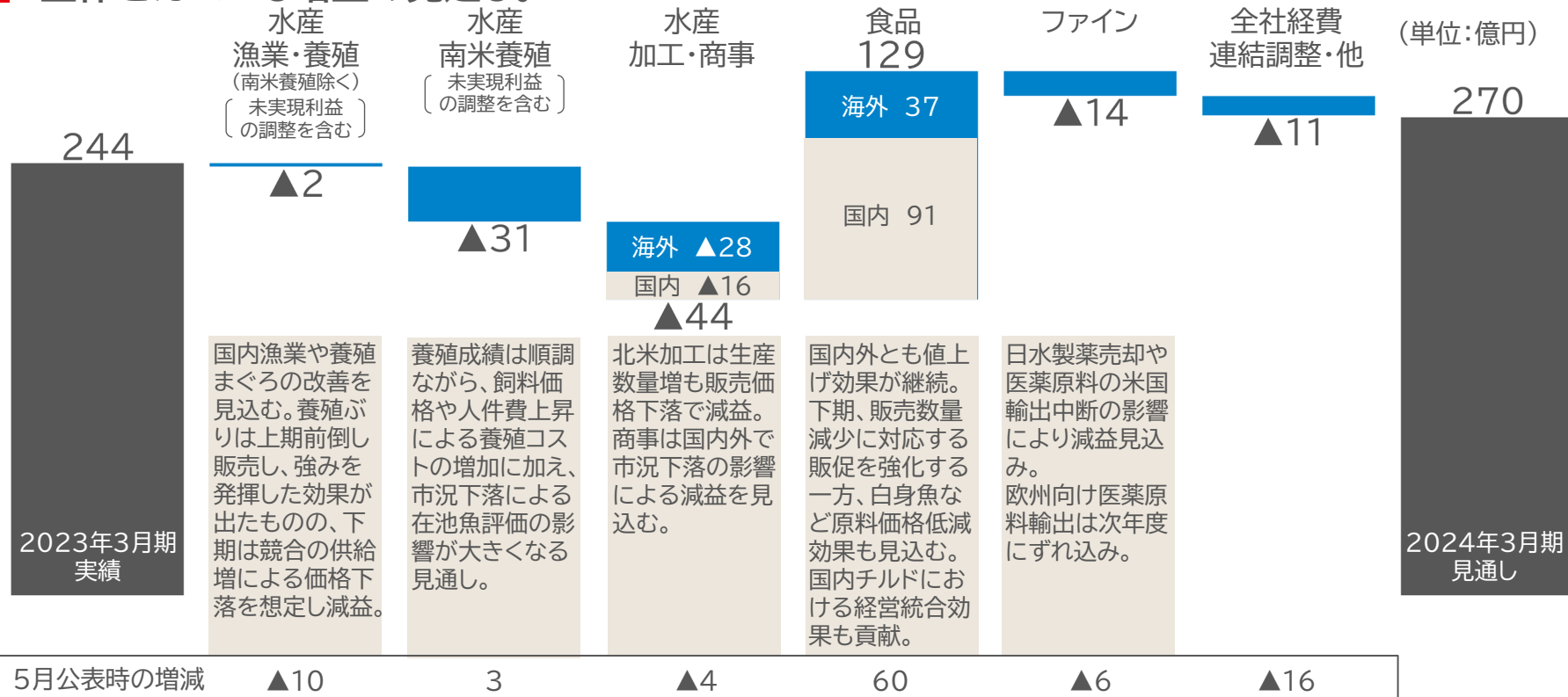
## 2024年3月期 通期見通し セグメント毎の計画を変更

- ・売上高は水産・食品とも為替の影響もあり増収。
- ・利益は国内外の年末需要期の市況や消費動向等を見極めて判断する。

(単位:億円)	2024年3月期 期初計画	2024年3月期 修正計画	対期初計画比増減		2023年 3月期 実績	対前期比増減	
			(億円)	率(%)		(億円)	率(%)
<b>売上高</b>	<b>8,000</b>	<b>8,200</b>	<b>200</b>	<b>2.5</b>	<b>7,681</b>	<b>518</b>	<b>6.7</b>
水産事業	3,173	3,272	99	3.1	3,283	▲10	▲0.3
食品事業	4,275	4,395	120	2.8	3,820	575	15.1
ファインケミカル事業	177	151	▲25	▲14.2	251	▲99	▲39.5
物流事業	178	179	1	0.7	154	24	15.7
その他	197	200	3	1.6	171	28	16.4
<b>営業利益</b>	<b>270</b>	<b>270</b>	<b>0</b>	<b>0.0</b>	<b>244</b>	<b>25</b>	<b>10.3</b>
水産事業	173	110	▲62	▲36.3	185	▲75	▲40.7
食品事業	171	238	67	39.6	114	124	108.9
ファインケミカル事業	10	2	▲8	▲78.5	17	▲14	▲86.9
物流事業	12	14	2	22.7	15	▲1	▲7.7
その他	7	8	1	14.1	7	0	12.6
全社経費	▲104	▲104	0	0.4	▲95	▲8	8.8

# 2024年3月期 通期見通し 主な営業利益増減要因(前期比)

市況下落の影響を可能な範囲で強めに見ているが、国内外とも値上げが浸透した食品が全体をカバーし増益の見通し。



国内漁業や養殖まぐろの改善を見込む。養殖ぶりは上期前倒し販売し、強みを発揮した効果が出たものの、下期は競合の供給増による価格下落を想定し減益。

養殖成績は順調ながら、飼料価格や人件費上昇による養殖コストの増加に加え、市況下落による在池魚評価の影響が大きくなる見通し。

北米加工は生産数量増も販売価格下落で減益。商事は国内外で市況下落の影響による減益を見込む。

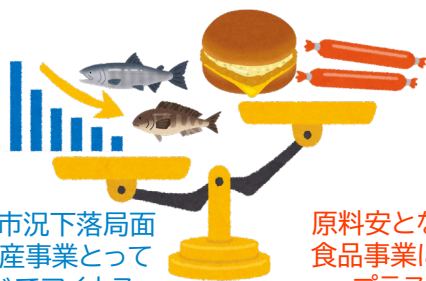
国内外とも値上げ効果が継続。下期、販売数量減少に対応する販促を強化する一方、白身魚など原料価格低減効果も見込む。国内チルドにおける経営統合効果も貢献。

日水製薬売却や医薬原料の米国輸出中断の影響により減益見込み。欧州向け医薬原料輸出は次年度にずれ込み。

水産事業と食品事業は互いに補完しつつ、着実に利益水準を切り上げてきた。

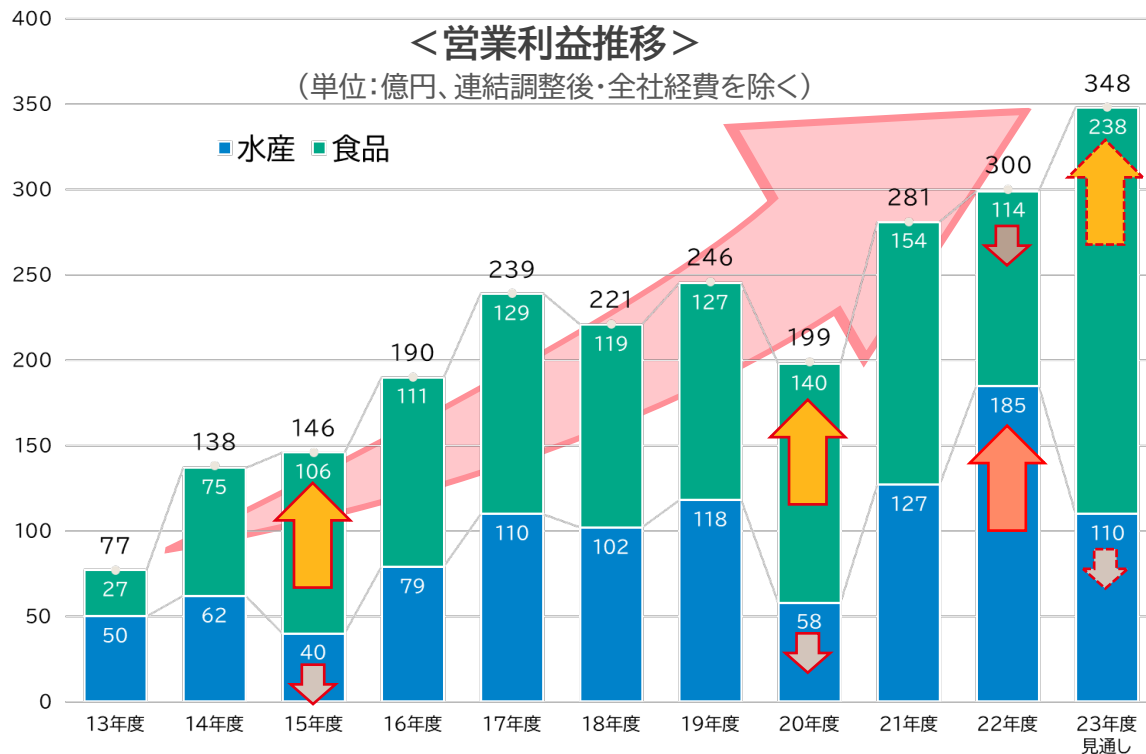
水産市況と食品事業  
の利益が連動している

(水産市況下落時は水産事業はマイナスに働くが、原料に水産物を多く使用する食品事業にとってはコストダウンとなるためプラスに働く)



## <営業利益推移>

(単位:億円、連結調整後・全社経費を除く)



水産市況の動向に警戒感を持って、在庫マネジメントを徹底する。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 修正計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,283	3,272	▲10	▲0.3
営業利益	185	110	▲75	▲40.7

▶ 下期以降のポイント

<国内>

- ― 最需要期である第3四半期がKey。販売と仕入/在庫マネジメントを強化する。
- ― 養殖は完全養殖ぶりの早期販売・短期畜養まぐろの販売強化に加え、銀鮭の更なる養殖規模拡大を図る。

<海外>

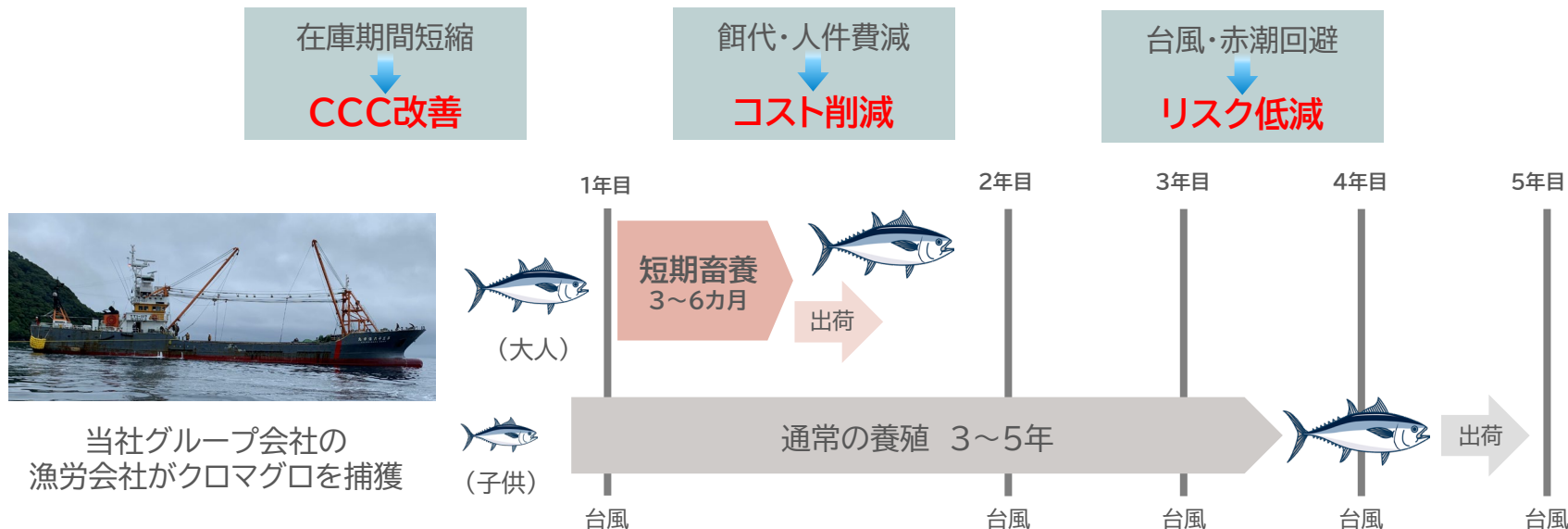
- ― 第2四半期までは市況下落により在池魚や在庫に係る評価の影響が大きくなったが、回転率を高めた販売を進めることで影響を軽減し、アセットライトを実現する。
- ― (南米)加熱用フィレ製造ラインの自動化投資により、生産体制を効率化し、高付加価値品の販売を拡大することで収益力を向上させる。
- ― (北米)すけそうだら資源獲得の取組みを具体化するため、フィレ生産能力増強投資を検討。

# 水産事業の取組み:まぐろ養殖事業の改善とROIC

## 漁業と養殖の機能を融合した差別化事業を拡大。

- ▶ 一定サイズのクロマグロを漁獲し、半年程度養殖するビジネスのウェイトを高めていく。

$$\text{ROIC 向上の施策} = \frac{\text{税引後営業利益の改善}}{\text{投下資本の効率性向上}}$$



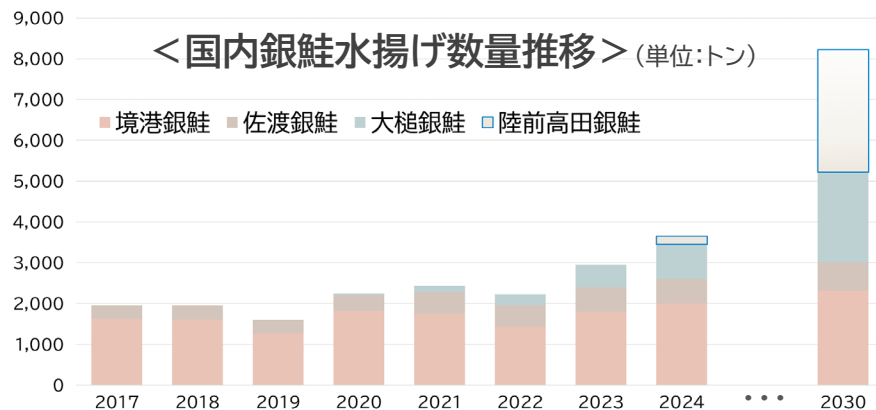
# 水産事業の取組み:国内銀鮭養殖事業の拡大

岩手県で大槌町に続き陸前高田市でサーモン養殖に着手。

▶ 2023年11月をめぐりに試験養殖を開始。地域社会との連携や行政・地元漁協と協働し、早期の養殖事業への移行を目指す。

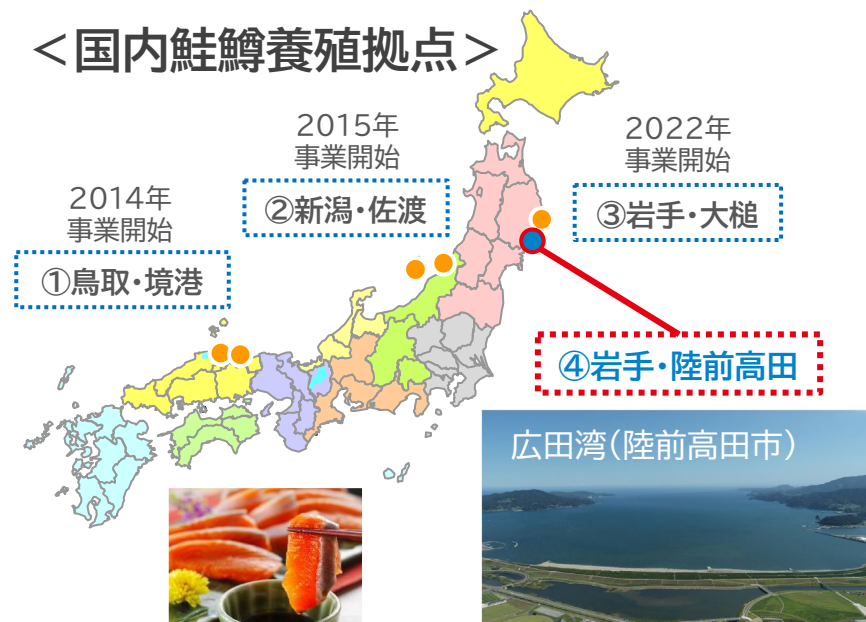
▶ 銀鮭養殖事業の拡大

― 将来的には年間8,000トンの水揚げ規模を目指す



$$\text{ROIC 向上の施策} = \frac{\text{税引後営業利益の改善}}{\text{投下資本の効率性向上}}$$

## ＜国内鮭鱒養殖拠点＞





## 高度加工品を増やし収益の改善を図る。

### ▶ 今後の見通し・打ち手

ー 主に北米向けの加熱用フィレラインを増産すべく  
フィレラインの自動化し生産性を高める(人員減)



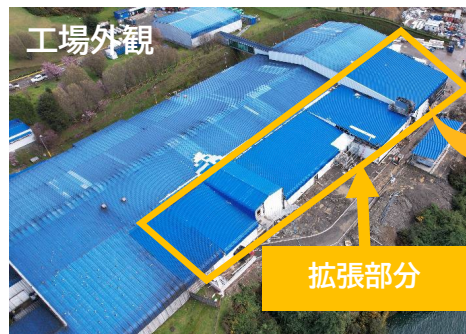
ー フィレラインの人員を生食用(刺身など)ラインに  
再配置することで、主に日本向けの生食製品の  
生産数量を増やす

トラウトサーモンの付加価値を  
高め、市況に打たれ強く  
安定した収益構造を構築する。

ROIC  
向上  
の施策

税引後営業  
利益の改善

投下資本の  
効率性向上



刺身ライン(イメージ)



## 値上げ後の販売環境の変化に対応していく。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 修正計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	3,820	4,395	575	15.1
営業利益	114	238	124	108.9

### ▶ 下期以降のポイント

#### <国内>

- おにぎりや麺類・健康領域商品群など当社が得意とするカテゴリで販売促進策を講じ、販売数量を伸長/回復していく。
- 商品の単品別収支管理を徹底することでアイテム削減などを実施し、既存商品の収支管理を進めていく。

#### <海外>

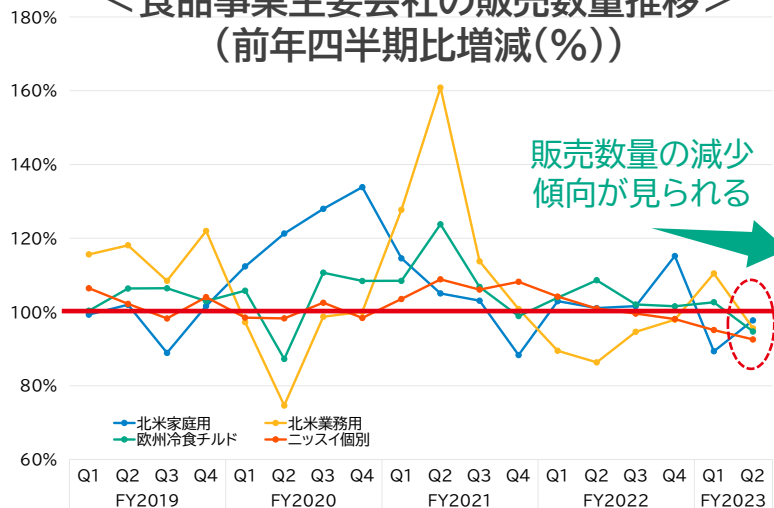
- (北米)家庭用は広告費の投入を「Air Fried」品などに集中し効果的な販売促進を図る。業務用はシューマイなどアジア食品市場向けの取組みを継続する。
- (欧州)昨年買収したケラナ工場(フランス)の生産能力を増強するための投資を検討。販売拡大と生産性改善を図る。

# 食品事業の取組み: 需要促進策

## 需要を喚起する施策を国内外で実施。

- ▶ 過去数回の値上げによりコストアップへの対応は進んだが、国内外で数量減の影響が出始めている。

＜食品事業主要会社の販売数量推移＞  
(前年四半期比増減(%))



- ▶ 効果的な販売促進や需要喚起策を実行し、商品回転率を上げていく。

ROIC  
向上  
の施策

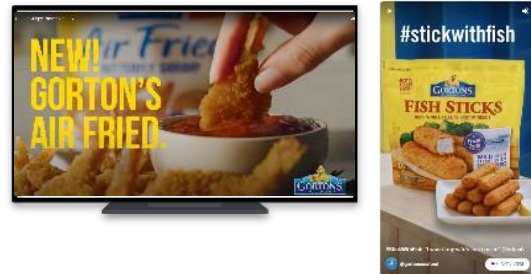
税引後営業  
利益の改善

投下資本の  
効率性向上

日本: 增量キャンペーンやTVCMを活用し、注力商品を拡販



海外: 注力したい商品 (北米: Air Fried、など)をCMやSNSを活用して認知拡大



## コロナ禍で増えた即食・簡便ニーズに対応したチルド事業をさらに拡大

ROIC  
向上  
の施策

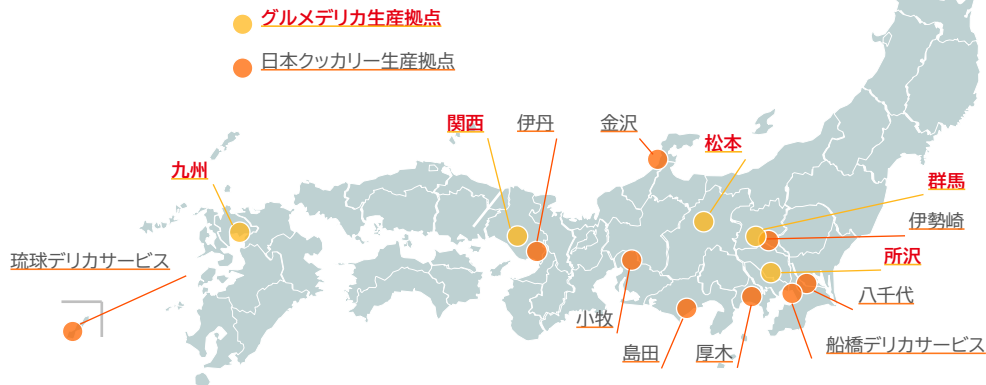
税引後営業  
利益の改善

投下資本の  
効率性向上

### ▶ 今後の打ち手・取組み

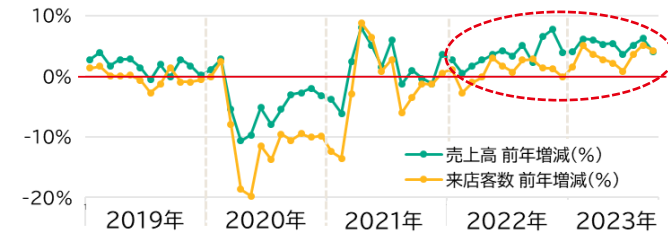
- 商品開発体制を強化していく
- 生産性向上に向けた生産工場の最適化
- カバーエリア拡大したことで配送効率などを高めていく

- チルド食品と冷凍食品加工のノウハウを活かし、「キューディッシュ」や冷凍弁当など新しいカテゴリーを創造



### <CVS業界売上・客数推移> (前年増減比)

(出典: JFAコンビニエンスストア統計調査月報)



欧米向け医薬原料販売に向けて、生産・販売の両面で体制を整える。

(単位:億円)	2023年3月期 実績	2024年3月期 修正計画	対前期比増減	
			(億円)	増減率(%)
売上高	251	151	▲99	▲39.5
営業利益	17	2	▲14	▲86.9

▶ 下期以降のポイント

<医薬原料>

- 一 欧州のASMF(原薬マスターファイル)申請に向け準備中。

<機能性原料>

- 一 原料に高い品質レベルを求める顧客に対応するため、スペインの会社と協働で認証魚油の取扱いを計画(MSC認証)。

<機能性食品・通販・他>

- 一 通販はEPAドリンクの新商品投入でバリエーション拡大。ドラッグストアやディスカウントストアとの協働による小売市場への展開も進める。



量販店などで店頭  
販売が始まった  
「EPA・DHAグミ」

## 世界中で医薬品向け高純度EPAを拡大していく

税引後営業  
利益の改善

ROIC  
向上  
の施策

=  
投下資本の  
効率性向上

欧州

欧州展開への申請準備

日本

EPA新剤型の需要拡大に期待

米国

出荷再開に期待

アジア

中国・タイ・ベトナムでの市場拡大に期待

### ▶ 今後の打ち手

- 欧州への原料出荷のため、ASMF(原薬マスターファイル)申請に向けた分析を検証中。早期に申請予定。
- 来期の出荷増を見据えて生産。海外輸出展開や国内新剤型向けに準備をおこなう。

保管機能を拡大するとともに、物流体制と機能を見直すことで、効率的かつ最適な物流体制の構築・課題解決を進める。

▶ グループ企業の日水物流株式会社が「南港物流センター」を24年1月に開業予定。これにより設備能力は3.5% (+15,985トン)増加。

- 一 阪神港周辺の貨物増加による冷蔵倉庫保管スペースのひっ迫を緩和するとともに、既存の関西エリアの拠点と連携することで、事業基盤の安定化を図る。
- 一 物流2024年問題への対応を踏まえ、物流の効率化による生産性向上を目指す。

ROIC  
向上  
の施策

税引後営業  
利益の改善

投下資本の  
効率性向上



南港物流センター

## 海の健全性につながる森林の保全活動を拡大

- ▶ これまでの2か所の活動に加え兵庫県にも活動範囲を拡大。「企業の森づくり活動への取組みに関する協定」を兵庫県・姫路市および公益社団法人兵庫県緑化推進協会との間で締結

「森・川・海」を一体と考えた活動  
～豊かな森こそが豊かな海を育む～  
事業所周辺エリアで保全活動を展開



2018年より養殖や漁業拠点を有する鳥取県にて「とっとり共生の森」活動をスタート。




2013年より東京イノベーションセンターに隣接する宇津貫緑地の里山で森林保全活動を継続。



姫路総合工場(兵庫県姫路市)が取水している、市川の流域にある「こうでら健康の森」を「ニッスイの森」と命名し、水源涵養と地域社会との共生や従業員の環境意識向上を目的とする森林保全活動を、2023年10月より開始。





変化への対応力を上げ、  
長期ビジョン

「人にも地球にもやさしい食を世界に  
お届けするリーディングカンパニー  
(Good Foods 2030)」  
達成に向けて取り組んでまいります。

## 見通しに関する注意事項

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものであり、これらの達成を保証するものではありません。

実際の業績は、様々な要因により、見通し等とは大きく異なることがあります。その要因としては、市場の経済状況および製品の需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種制度や法律の改定などが含まれます。

従いまして、本資料の利用は、利用者の判断によって行いますようお願い致します。本資料の利用によって生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではないことをご認識頂きますようお願い申し上げます。



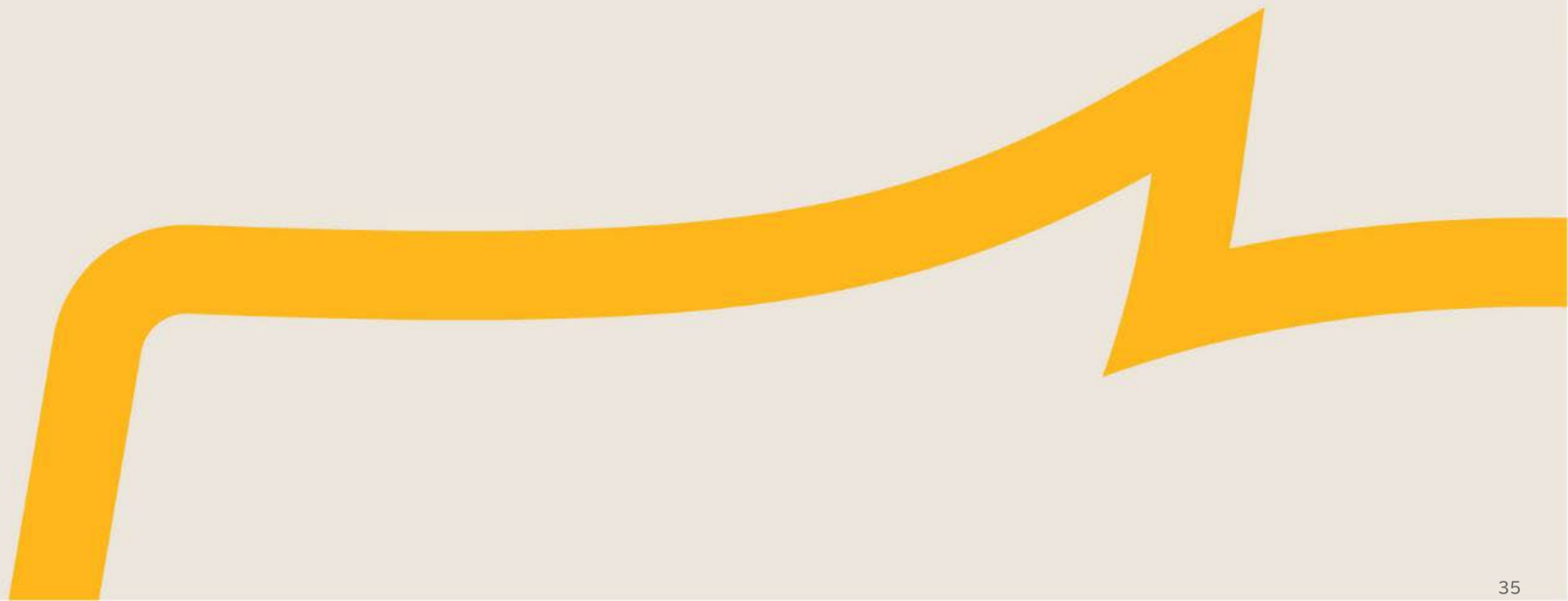
**まだ見ぬ、食の力を。**

株式会社ニッスイ  
証券コード：1332

お問合せ先：経営企画IR部IR課  
03-6206-7037

<https://www.nissui.co.jp/ir/index.html>

## 參考資料



## 2024年3月期第2四半期 連結損益計算書(前年同期比)

(単位:億円)	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	増減	主な増減要因
売上高	<b>3,772</b>	<b>4,071</b>	<b>299</b>	
売上総利益	<b>589</b>	<b>636</b>	<b>47</b>	
販売費・一般管理費	455	474	18	
営業利益	<b>133</b>	<b>162</b>	<b>29</b>	
営業外収益	21	22	0	
営業外費用	7	14	6	支払利息+7
経常利益	<b>147</b>	<b>170</b>	<b>23</b>	
特別利益	36	18	▲ 18	投資有価証券売却益+16、関係会社株式売却益▲34
特別損失	13	13	0	
税金等調整前四半期純利益	<b>170</b>	<b>174</b>	<b>4</b>	
法人税等	53	65	12	
法人税等調整額	▲5	▲10	▲4	
四半期純利益	<b>122</b>	<b>119</b>	<b>▲3</b>	
非支配株主に帰属する 四半期純利益	5	2	▲2	
親会社株主に帰属する 四半期純利益	<b>117</b>	<b>116</b>	<b>▲0</b>	

## 2024年3月期第2四半期 為替換算による影響額(売上高)、為替レート (連結調整前)

主要在外会社の 為替換算レート	2023年3月期 第2四半期		2024年3月期 第2四半期		前年同期比増減		増減内訳(億円)	
	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	円貨(億円)	現地通貨	為替影響
USD(百万ドル)	737	915	779	1,062	41	147	52	95
EUR(百万ユーロ)	199	270	229	339	29	68	39	29
DKK(百万クローネ)	1,827	332	1,688	335	▲139	2	▲26	28
その他通貨	—	150	—	175	—	24	13	11
計		1,669		1,911		242	78	164

### 【参考:為替レート】

※右表の為替レートは  
第2四半期の平均

	2023年3月期 第2四半期	2024年3月期 第2四半期	変動率
米ドル(USD)	131.25 円	139.63 円	6.4%
ユーロ(EUR)	138.75 円	151.89 円	9.5%
デンマーククローネ (DKK)	18.65 円	20.39 円	9.3%

## 2024年3月期第2四半期 セグメントマトリックス 売上高(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	仮計	連結調整	連結計
水産事業	1,180 (35)	332 (43)	178 (30)	29 (▲0)	377 (12)	<b>2,098 (121)</b>	▲466 (▲63)	<b>1,632 (57)</b>
	1,145	289	147	30	365	<b>1,977</b>	▲403	<b>1,574</b>
食品事業	1,385 (180)	550 (73)		55 (9)	386 (76)	<b>2,377 (339)</b>	▲186 (▲22)	<b>2,191 (317)</b>
	1,205	476		46	310	<b>2,038</b>	▲164	<b>1,873</b>
ファイン事業	90 (▲91)			0 (▲2)		<b>90 (▲93)</b>	▲11 (1)	<b>79 (▲91)</b>
	182			2		<b>184</b>	▲13	<b>171</b>
物流事業	145 (▲4)					<b>145 (▲4)</b>	▲67 (2)	<b>77 (▲2)</b>
	149					<b>149</b>	▲69	<b>80</b>
その他事業	118 (▲0)			0 (0)		<b>119 (▲0)</b>	▲29 (18)	<b>90 (18)</b>
	119			0		<b>119</b>	▲47	<b>72</b>
仮計	<b>2,920 (118)</b>	<b>883 (116)</b>	<b>178 (30)</b>	<b>86 (6)</b>	<b>764 (89)</b>	<b>4,832 (361)</b>		
	<b>2,801</b>	<b>766</b>	<b>147</b>	<b>80</b>	<b>675</b>	<b>4,470</b>		
連結調整	▲489 (▲36)	▲92 (▲15)	▲105 (▲6)	▲60 (▲5)	▲12 (1)		▲761 (▲62)	
	▲453	▲77	▲98	▲55	▲13		▲698	
連結計	<b>2,430 (81)</b>	<b>790 (101)</b>	<b>72 (24)</b>	<b>25 (1)</b>	<b>752 (90)</b>			<b>4,071 (299)</b>
	<b>2,348</b>	<b>688</b>	<b>48</b>	<b>24</b>	<b>661</b>			<b>3,772</b>

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

※連結調整にはグループ間取引による売上高消去が含まれる。

# 2024年3月期第2四半期 セグメントマトリックス 営業利益(前年同期比)

(単位:億円)

	日本	北米	南米	アジア	ヨーロッパ	全社経費	仮計	連結調整	連結計	営業利益率(%)
水産事業	53 (▲5)	▲0 (▲8)	▲3 (▲11)	0 (▲0)	8 (▲2)		57 (▲28)	▲2 (1)	55 (▲27)	3.4 (▲1.8)
	58	7	7	0	11		85	▲3	82	5.2
食品事業	88 (61)	26 (4)		4 (▲0)	26 (8)		145 (74)	▲3 (▲2)	141 (72)	6.5 (2.8)
	27	21		4	17		70	▲1	69	3.7
ファイン事業	0 (▲17)			▲0 (▲0)			0 (▲17)	▲0 (▲0)	▲0 (▲18)	▲0.4 (▲10.9)
	17			0			17	0	18	10.5
物流事業	8 (0)						8 (0)	0 (▲0)	8 (0)	11.5 (0.5)
	8						8	0	8	10.9
その他事業	3 (▲1)			0 (▲0)			3 (▲2)	0 (1)	3 (▲0)	4.1 (▲1.5)
	5			0			5	▲1	4	5.6
全社経費						▲46 (2)	▲46 (2)	0 (0)	▲46 (3)	
						▲49	▲49	0	▲49	
仮計	154 (37)	25 (▲3)	▲3 (▲11)	3 (▲1)	34 (5)	▲46 (2)	168 (29)			
	116	29	7	5	29	▲49	139			
連結調整	▲7 (▲2)	▲0 (1)	4 (1)	0 (0)	▲2 (▲1)	0 (0)		▲5 (0)		
	▲4	▲2	2	0	▲1	▲0		▲5		
連結計	147 (35)	24 (▲2)	0 (▲9)	4 (▲1)	31 (4)	▲46 (2)			162 (29)	4.0 (0.5)
	112	27	10	5	27	▲49			133	3.5

※上段は当期累計実績、下段は前年同期累計実績、右肩括弧内は増減を表わす。

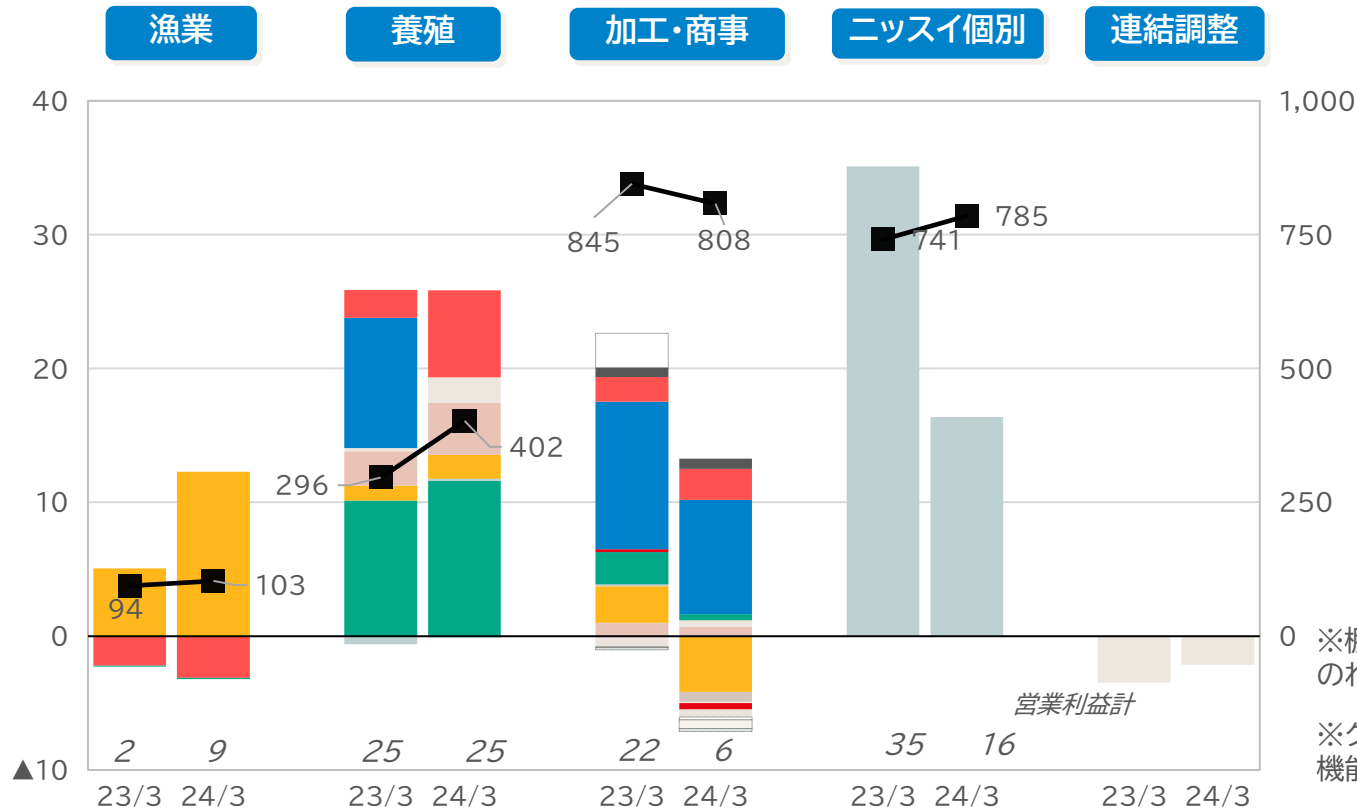
※連結調整にはのれん償却、棚卸資産の未実現利益消去等が含まれる。

# 2024年3月期 第2四半期 水産事業 売上高・営業利益(前年同期比)

営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

(単位:億円)



※棚卸資産の未実現利益、のれん償却等含む

※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値



# 2024年3月期 第2四半期 食品事業 売上高・営業利益(前年同期比)

営業利益(棒グラフ)

売上高(折れ線グラフ)

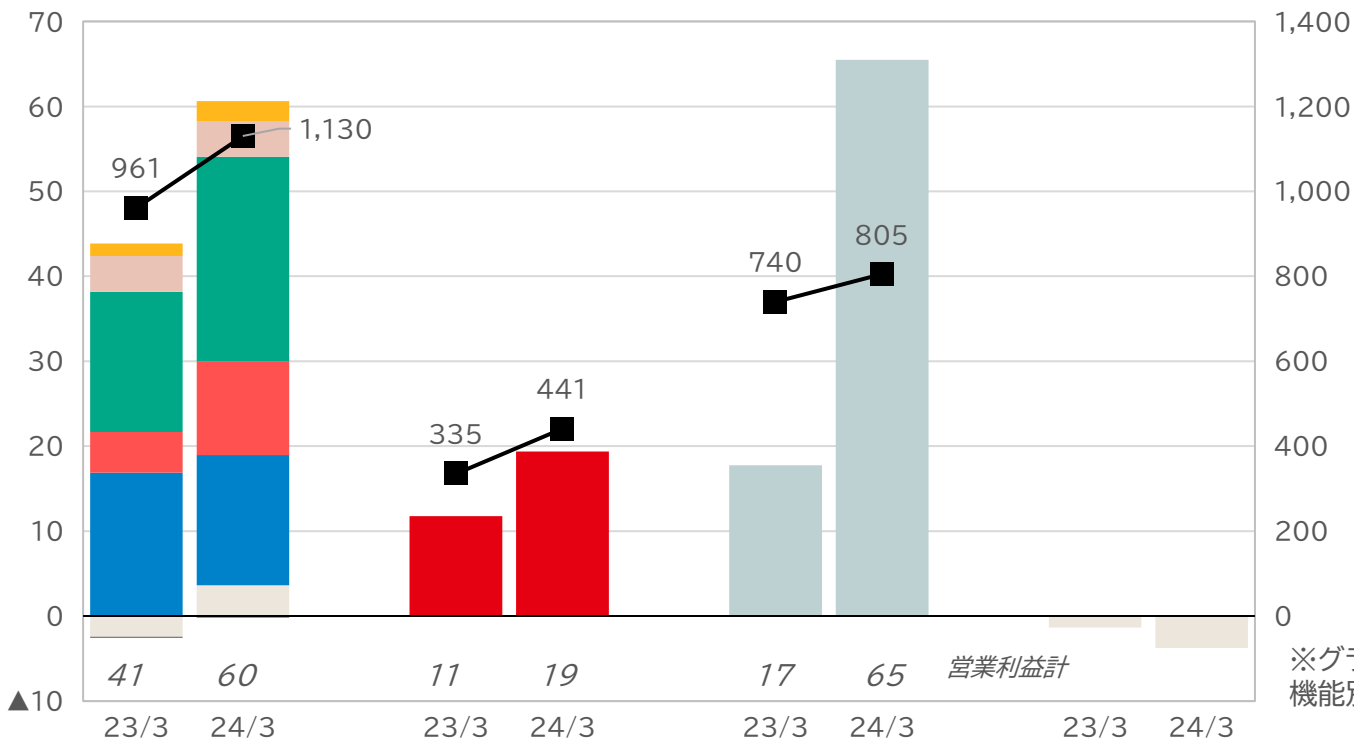
(単位:億円)

加工

チルド

ニッスイ個別

連結調整



※グラフ下部の斜体数値は機能別営業利益合計数値



まだ見ぬ、食の力を。